

# 「新型コロナウイルス対応から学んだこと」



オレンジ4階病棟  
看護師長 古川憲子



当院では2020年1月より新型コロナウイルス感染症患者さんの受け入れを続けています。

私の部署でも数カ月に渡り断続的に感染された入院患者さんへの対応を行いました。

通常の業務ができないことへのジレンマや戸惑いもありましたが、「地域の医療を守るために自分達にできることは何か」を考えながらチーム一丸となり試行錯誤し対応してきました。

その間、患者さんご自身で買い物に出ることができないため「買い物代行業務」や、清掃担当者の感染リスクを減らすため「病室のごみ回収業務」等も看護師の仕事の一つとなり、普段患者さんや周囲の職員にいかにか支えられているかを痛感するよい機会ともなりました。

新型コロナウイルスによる社会生活や医療への今後の影響ははっきりわかりませんが、今後も地域の皆様の生活を守るため、職員みんなで協力して対応していきたいと思っておりますので、引き続きご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

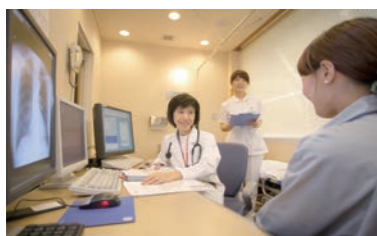


## 健診センターからのお知らせ

### 「土曜日」開設の人間ドックご案内

#### ●平日は忙しくて!という方向け

平日は忙しくて健診を受けられない方(65歳以下)を対象に、土曜日の人間ドックを開設いたしました。



#### —申し込み方法—

電話予約または直接健診センターへの来院予約

月曜日～土曜日 午前9時～午後4時  
(但し年末年始12/29～1/3及び5/1は除く)

電話番号 0422-30-5638 (直通)  
または0422-32-3111 (代)

### 「平日」開設の認知症ドックご案内

#### ●頭を健康を意識する方向け

体の健康だけではなく、頭の健康を意識する方向けに、認知症に重点をおいた認知症ドックを平日に開設いたしました。



健康管理の一環として、武蔵野赤十字病院健診センターをご利用ください。

お待ちしております。  
★詳しくは病院ホームページ→  
「人間ドックのご案内」で紹介しています。



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

## 武蔵野赤十字病院



No.71

2021年 秋

〒180-8610  
東京都武蔵野市境南町1-26-1  
TEL 0422-32-3111  
季刊 情報誌



## Eye むさしの

### 頼れる病院をめざします



#### 基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

#### 基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

# ～見えるを守る～

新型コロナウイルス流行第5波が収束し、当科にご紹介いただく患者さんの数も徐々に増えてまいりました。ようやく受診できると満を持していらした患者さんの中には進行した**白内障**や**増殖糖尿病網膜症**の方が以前より多い印象です。



## 白内障は、



加齢や様々な原因により水晶体が混濁し視力低下や霧視、羞明、複視などの症状を呈する疾患です。

現在ではほぼ全ての症例に対して超音波乳化吸引術が行われ、温存した水晶体嚢内に眼内レンズを挿入します。手術時間は10分から15分程度であり、原則日帰り手術で施行しています。



しかし一部の症例では水晶体嚢を眼内で吊っている靭帯であるチン小帯が脆弱なことがあり、眼内レンズを嚢内固定する事ができない場合があります。

以前はそのような症例に対して眼内レンズを毛様溝に縫着する手術が行われていましたが、近年ではより簡便に行う方法として眼内レンズの支持部を強膜内に固定する手技が広く普及しており、当科でも採用しております。

## 糖尿病網膜症は

**単純網膜症**、**増殖前網膜症**、**増殖網膜症**に分類されますが、かなり進行しても自覚症状が乏しい場合があります、急激な視力低下や視野狭窄で受診された時にはすでに硝子体出血や牽引性網膜剥離が発症している場合も少なくありません。

歪みや視力低下の原因となる黄斑浮腫はどの段階でも発症し、血管新生緑内障は失明に至る可能性が高く迅速な治療介入が必要となります。当科では網膜光凝固術や、抗血管内皮増殖因子（vascular endothelial growth factor：VEGF）薬の硝子体注射およびステロイド製剤の注射、網膜硝子体手術を施行しています。



早期診断および治療により quality of vision（QOV）と quality of life（QOL）を維持することが目標であり、ご自身の大切な目を守るために自覚症状の有無にかかわらずかかりつけの眼科をもち、年数回の眼底検診を受けていただくことの重要性を再認識しております。



著者

眼科部長 長岡 奈都子